

平成 24 年度第 4 回佐世保市上下水道事業経営検討委員会 水道施設整備事業再評価（第 3 回）議事概要

日 時：平成 25 年 3 月 14 日（木） 11 時 00 分～12 時 00 分

場 所：J A させぼホール 6 階大ホール

出席者： 委員長 後藤恵之輔

副委員長 遠田公夫

委 員 馬場貴博、永渕秀雄、出口為雄、松尾宏之、柘田智登子

議事概要

【答申書のとりまとめについて】

再評価の諮問に対する答申書（案）と、代替案の検討の中で議論があった将来の渇水対策についての要望書（案）を委員長が提示し、修正等について以下のような意見が出された。

《答申書（案）について》

- ・「最重要課題に位置付け最善の努力を」との文中に、漏水対策によって 4 千 m³/日程度の漏水量を減少させてきたことを加えてほしい。
- ・ハウステンボスを始めとした観光業界の活性化の中で交流人口が爆発的に増えているということや、国防の西の最前線としての重要性など、地域経済に打撃を与えるという対症療法と同時に水需要は色んな状況に対応し得るフェールセーフ機能を持つ必要があると思うので、文脈中に含めてもらいたい。
- ・過去の渇水では観光産業だけではなく工業分野も影響を受けているので、そのことを加えてもらいたい。
- ・既存のダムは老朽化が進んでおり、いつ使用できなくなるとも限らない。その場合に市民に大きな打撃を与えることになるので、水源には本来はもっと余裕が必要であると思う。今回の再評価の答申としては提示されている案は十分な内容と思う。
- ・「客観的な情報を基に～」の部分で、審議においては各委員のそれぞれの立場からの専門的な意見が出されてきたので加えたらどうか。前回の再評価よりも代替案の検討項目を増やして審議した結果なども十分に反映されていると思う。
- ・水道料金の値上げに繋がることも踏まえてある。普段はあまり意見を言わない大

多数の市民の意見を十分に反映した答申であると思う。

- ・最後の「より一層関係当局が一丸となって～」の部分は、石木ダムは水を供給する側だけの問題ではないので、もっと具体的に市の都市計画、環境、基地、観光などの各セクションを明確に表現した方が良いと思う。

《要望書（案）について》

- ・今後の趨勢の変化によって、今後どのような技術が評価されていくのか分からない部分もある。この要望書は機会を捉えて国等に伝えるとあるが、今回の再評価結果の国への報告も良い機会であるので、答申書に付して提出してよいと思う。

以上の点について、修正を加え、各委員の確認を得た後に、水道局に対して答申を行うこととなった。